

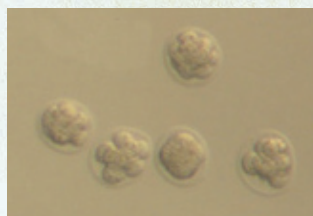


コスモスだより



泉州広域母子医療センター

産婦人科・生殖医療センター



病院の理念 基本方針

地域住民を守る良質な医療の提供

1. 医療を通じ患者さんの喜びが自らの喜びになるような職業人をめざします。
2. 常に技術の研鑽に努め、高度な医療の提供により、病気の早期発見・治療の充実をめざします。
3. 患者さんの治療には、各々の職務を結集したチーム医療をめざします。
4. 地域の医療機関と連携を密にし、信頼される中核病院として急性期医療をめざします。

泉州広域母子医療センター

産婦人科の充実と先進の生殖医療で 地域の母子医療に貢献

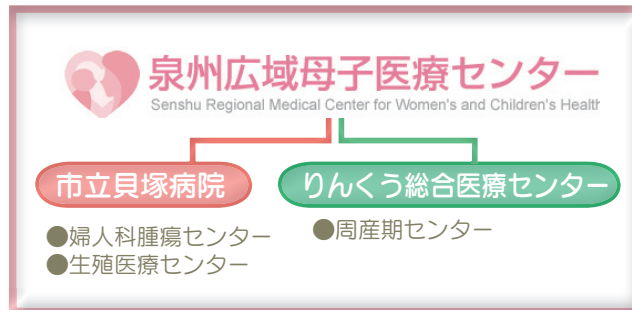
当院産婦人科は、2008年4月より、りんくう総合医療センター産婦人科（旧市立泉佐野病院）と『泉州広域母子医療センター』として統合されました。それぞれに役割分担を行い連携をはかりながら、泉州地域の産婦人科医療を担う拠点病院として、運用を行っています。



■ 泉州広域母子医療センターで 泉州地域における充実した母子医療の継続を

泉州広域母子医療センターの目的

- 泉州地域の産婦人科医療の充実
- 泉州地域から産婦人科の火を消さない
- 産婦人科勤務医の労働条件の改善



専門性を高め、それぞれの医療に 専念できる環境を整備。

センターの役割を分担したことにより、産科・婦人科・生殖医療（不妊治療）全般を当院で行っていた時に比べ、それぞれの専門性を高めたより充実した医療を行うことができるようになりました。特に当院では、『生殖医療』と『婦人科腫瘍』に力を注ぎ、より多くの患者さまにより良い治療効果が発揮できるよう取り組んでおります。

働きやすい労働条件を整え、産婦人科の火を消さない体制へ。

全国的な医師不足の問題は、皆さんご存知のことでしょう。特に夜・昼のない産科は、体力的にも精神的にも医師に大きな負担を強いる科でもあります。その過酷な勤務環境に出産における医療訴訟の増加なども加わり、産科・小児科の閉鎖が大きな問題として取り上げられてきました。泉南地区でも、2006年頃には産婦人科医療が崩壊寸前にありました。その中で、地域の母子医療を守るため【泉州広域母子医療センター】の構想が生まれたのです。

産婦人科を存続させるには、過酷な産婦人科医師の労働を少しでも軽減することが不可欠です。そこで、当院と旧市立佐野病院の医師が協力し、「オンコール（呼び出し待機）」を無くし、「2人当直体制」を組むことになりました。これにより、夜中に急いで病院に駆けつけるという危険な勤務状態を極力減らすことができました。また、2人体制のため、緊急帝王切開などにも迅速に対応することが可能になったのです。医療従事者の努力はもちろん、地域の皆様にもご理解ご協力をいただき、安心して出産していただける地域医療を継続していきたいと考えております。

センターの機能を向上させる業務連携

- 一般診療は両院とも受診可能
- 情報の共有化システム
- 施設を越えた医師の協力体制

一般的診療は両院で行い より受診しやすい体制を

妊娠検査や妊婦健診、両親学級、母子1ヶ月検診、外来診療などは、当院とりんくう総合医療センターどちらでも受診していただけます。

検診情報を両院で共有

当院でも妊婦健診を行っており、その情報は速やかに、りんくう総合医療センターに連絡されるシステムとなっております。夜間に何かあり、突然りんくう総合医療センターを受診された時にも、当院での妊婦健診情報をみることができますので、安心して受診していただけます。

両院での診察や治療をよりスムーズにより安心に

両センターに来院される方の診察や治療をスムーズに行うため、両センターの医師やスタッフが密に連絡をとることはもちろん、センターを越えて医師が協力することにより、安心して治療を受けていただけます。また手術の際だけでなく、医師が行き来をしながら、両センターでの診療の充実をはかっています。

- りんくう総合医療センターで受診された方が貝塚で手術をされる場合、りんくう総合医療センターの主治医も執刀できます。
- 予定帝王切開では、貝塚外来主治医が泉佐野病院の手術に立ち会うようにしています。
- 貝塚外来担当医が、りんくう総合医療センターでの回診、夜間当直も行っています。

市立貝塚病院 産婦人科

婦人科全般の医療に幅広く対応

泉州広域母子医療センター開設により、当院では思春期から老年期までの幅広い婦人科全般と生殖医療に特化し、より高度な医療の提供につとめています。特に婦人科悪性腫瘍については、治療の幅を広げ治療効果の向上に取り組んでいます。



【外来診療】

- | | |
|------|--|
| 婦人科 | ●月経異常 ●良性疾患 ●悪性疾患 ●拳児希望診療 |
| 産科 | ●妊婦健診 ●両親学級 ●母子1ヶ月検診
*助産師による妊産婦指導 *分娩後のケア |
| 生殖医療 | ●人工授精・体外受精など |

【入院診療】

- 悪性婦人科腫瘍疾患（卵巣癌、子宮頸部癌、子宮体癌、子宮肉腫など）
- 良性婦人科疾患（卵巣良性腫瘍、子宮筋腫など）



■ 生殖医療センター 「子供が欲しい・・・」その願いに応えたい

不妊に悩むカップルは10組に1組と言われています。検査や治療を受けていない方の数を含めると、実際にはこれ以上となるでしょう。

当院の生殖医療センターでは、『タイミング療法』や『人工授精』に加え、『体外受精』や『顕微授精』などの生殖医療（不妊治療）を行っています。高度な生殖医療で「子供が欲しい」という思いの実現を、できる限りお手伝いしたいと願っております。※当院は特定不妊治療費助成制度の指定医療機関です

生殖医療センターの特徴

- 最新の生殖医療を提供。
- 全身麻酔による採卵で、身体の負担をより軽く。
- 不妊の原因となる婦人科疾患の治療が可能。
- 妊娠後は泉州母子医療センターとして、妊娠・分娩経過の診察も可能。



■ 公立病院としては数少ない 高度な生殖医療を提供。

当院では、平成8年より体外受精に取り組んできました。泉州母子医療センターの開設を機に設備を整備し、胚培養士をスタッフに加えることで、顕微授精などさらに進化した生殖医療（不妊治療）にも取り組んでいます。

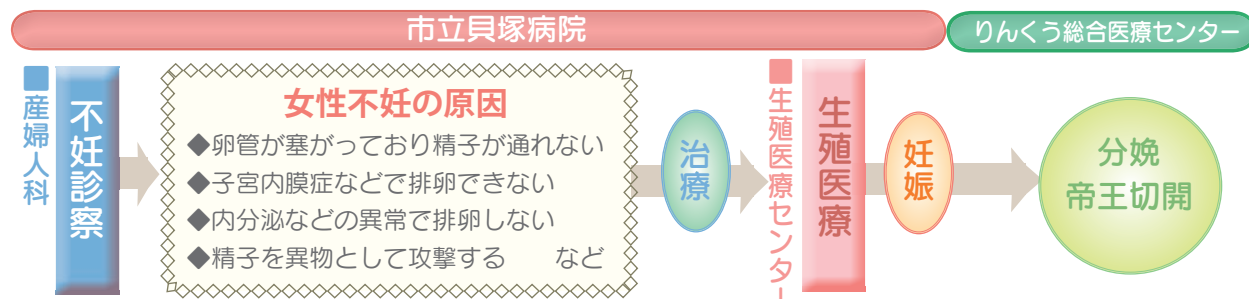


■ 麻酔科のある総合病院ならではの全身麻酔採卵で、採卵時の負担を軽減。

生殖医療を行うクリニックなどでは、部分麻酔による採卵が行われるのが一般的です。しかし総合病院として全身麻酔のできる当院では、少しでも身体の負担や苦痛を軽減するため、静脈麻酔による採卵を行っています。採卵後もゆっくりと休息していただけるよう、配慮いたしております。

■ 「婦人科腫瘍センター」併設により、不妊の原因疾患治療からの一貫した不妊治療を。

生殖医療を取り扱う他の多くの民間クリニックとは異なり、婦人科も併設しているため、不妊の原因となる子宮内膜症・筋腫などの婦人科外科治療なども積極的に行っています。妊娠後も「りんくう総合医療センター」と連携して妊娠・分娩経過を診察させていただくことも可能で、一貫した治療と診察が行えます。

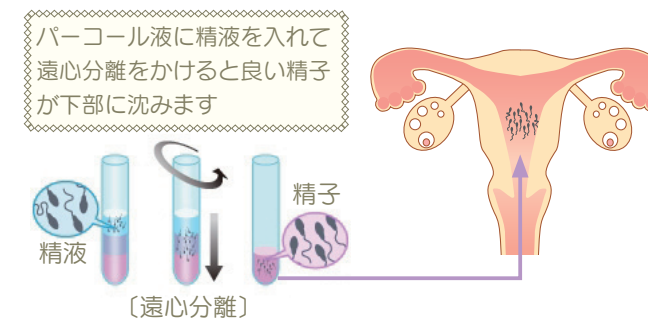


生殖医療の方法

精子を子宮に注入する

■ 人工授精（AIH）

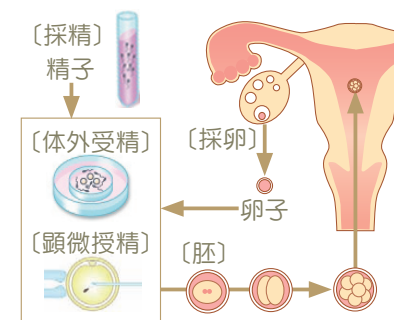
精子を人工的に女性の身体へ注入します。できるだけ多数の元気な精子を注入し、体内で受精させることを目的とします。



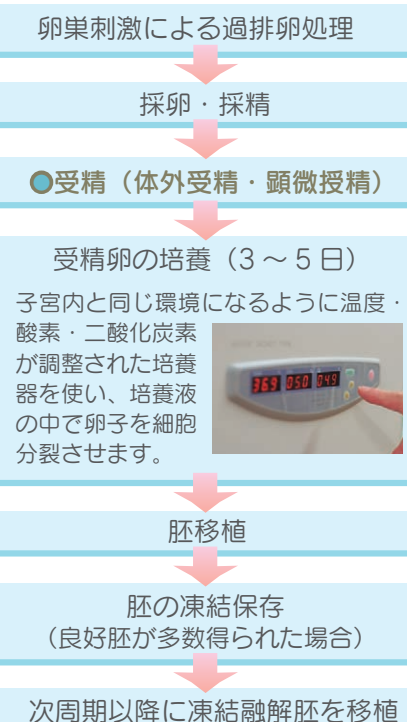
胚を子宮に移植する

■ 胚移植（ET）

精子と卵子を採取して人工的に受精させ、適度に分裂した胚（受精卵）を、専用のカテーテルを用いて子宮内に移します。受精卵を作る方法には、「体外受精」と「顕微授精」があります。



《胚移植の流れ》



● 体外受精（IVF）

卵巣を刺激し、複数の卵子を发育させて採取します。最適の濃度に調整した精液を卵子にふりかけ、受精させて培養します（媒精）。



● 顕微授精（ICSI）

卵子の中に精子を直接注入して受精させる方法です。乏精子症や精子無力症、または体外受精で全く受精卵が得られなかった場合などに行います。



■ 婦人科腫瘍センター

先進治療法で患者に優しく効果的な治療を

■ 負担の少ない『腹腔鏡手術』『子宮鏡手術』が可能

卵巣良性腫瘍・子宮筋腫などは、腹腔鏡や子宮鏡を用いた低侵襲の治療を積極的に行っています。お腹を大きく切る開腹手術に比べ、傷が目立たない・術後の癒着が少ない・痛みが少ないなど、身体への負担が少なく入院期間も短くなります。直接ではなくモニターを見ながらの手術のため、経験と高い技術が必要とされる術式でもあります。

腹腔鏡手術

お腹に小さな穴を数ヶ所開けて手術器具を差し込み、腹腔鏡で腹腔内の様子を写したモニターを見ながら手術を行う方法です。

子宮鏡手術

子宮用の細い内視鏡を子宮の入り口から挿入して、モニターで見ながら、子宮鏡の先端にある電気メスで手術を行います。



■ 大阪大学との協力により新しい治療法を速やかに導入

臨床的な抗がん剤の治療を含めて、大阪大学と共同で情報のやりとりを行い、新しい治療が速やかに導入できるようにしています。どの治療が最適であるかは、婦人科医師全員で検討を行い決定しています。

◆産まれた赤ん坊の顔が見られるからこそ 喜びもひとしお

生殖医療によって誕生する新生児数は、ここ数年 18,000～20,000 人に達しており、全出産数の約 1.8%を占めています。多くの方が不妊症と診断され、治療され、出産に至っているのです。生殖医療の技術の発達により、今まで子供さんをもつことを諦めていた方にも妊娠、出産することが可能となりました。

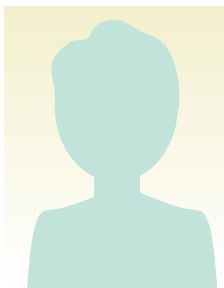
日本では開業された先生方の努力により、今の生殖医療の礎が築かれました。生殖医療は、最初すべて医師が行っていましたが、胚培養士の方に、卵・精子・受精卵の管理をまかせるようになってから、飛躍的に数が増え、妊娠率が向上しました。また、受精卵の凍結方法の改善により、凍結胚移植の妊娠成績もよくなりました。ただ、採卵・胚移植・卵の発育モニターなどは患者さんの体の状態により異なり、予定が決まりにくいこと、胚培養士に対する社会的な認知が少なかったこと、一人の患者さんに対し 1 週間に何回かの医師の診察を必要とし、一人の医師では負担があることなどにより、大病院での生殖医療は定着しませんでした。

当院は、故井手名誉院長の時代から生殖医療を行っており、その流れで体外受精も早くから行っていました。平成 20 年度からは専任の胚培養士を採用し、顕微授精ができる機械を導入。胚培養士が専任で在籍している全国でも数少ない公立病院のひとつとなりました。当院では生殖医療のみを行うのではなく、不妊症に対する治療・子宮筋腫核出術・内膜症に対する卵巣および子宮に対する外科的な治療を積極的に行なっております。腹腔鏡をなるべく使用することで、侵襲が少なく、術後の回復が早くなるように心がけています。

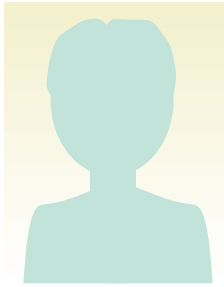
また、体外受精・体外受精により妊娠した場合、妊婦健診も当院で行なっております。分娩は集約化した「りんくう総合医療センター」となりますが、常に情報のやりとりを行い、分娩に立ち会うことはほとんどできませんが、分娩後の回診はできるだけ行なっております。骨盤位、前回帝王切開既往の妊娠など予定で帝王切開による分娩の方は、当院の検診担当医師が立会います。生殖医療で妊娠された場合、自然に妊娠された方よりも強く不安を感じることは当然のことです。主治医はそのことを認識して検診を行うことが大切であると考えています。

生まれた赤ちゃんの顔と、誕生を喜ばれるご家族の様子を見るたびに、この仕事に携わった喜びを感じ、健やかに育ってくれることを願います。最近、いろいろな状況の分娩に立会うにつけ、両親から祝福される赤ちゃんは幸せだと感じずにはいられません。

生殖医療センター



産婦人科部長兼
生殖医療センター長
井阪 茂之

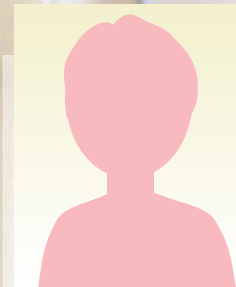


産婦人科副部長
橋本 洋之

◆祈るような気持ちで卵をみています

私は大学の生物理工学部で発生遺伝子工学を学び、顕微技術の不妊で悩まれている方のために使えればと、胚培養士として生殖医療の分野に入りました。

妊娠（着床）には、採卵した卵の状態・分裂の状態、そして子宮環境が大きく影響します。どのタイミングで受精卵（胚）をお腹に戻すか、患者さんのご希望を伺いながら、先生と十分に検討して決定しています。受精と培養は非常にデリケートな作業です。少しでも良い受精卵にするため、室内を暗くし手元の明かりのみを使用したり、培養液も使用期限に関わりなく 2 週間以上使わないなど、細心の注意を払って作業を行っています。



胚培養士
小野寺 幸妃

生殖医療を受けられる方は、様々な思いで様々なことと向き合っていると思います。辛い思いをして頑張っても、卵が採れなかったり、受精しなかったりすることもあり、精神的にも肉体的にも経済的にも、決して楽なものではないはずです。その中で私にできることは、子宮に移植できる状態になるまで「例え 1 個でも必ず」と諦めないこと。毎回「これが最後になりますように」と祈るような気持ちで作業を行っています。生まれた赤ちゃんを見せてもらった時は、ほんとうに嬉しいです。顕微鏡と向き合う地道な作業の先にある姿を思いながら、少しでも多くの方が笑顔になっていただけるよう、これからも丁寧な心で取り組んでいきます。



■第 27 回 市立貝塚病院 市民公開講座

【テーマ】 **ロコモティブ・シンドローム予防で元気なシニアライフ！**

平成 23 年
9 月 28 日
(水)

《ご存知ですか？ロコモティブ・シンドローム！》

ロコモティブ・シンドローム（ロコモ）とは、主として加齢による骨・関節・筋肉などの運動器の障害や機能低下のために、立ったり歩いたりする能力の低下をきたして、要介護となる危険の高い状態のことです。最近“よくつまずく”、“長く歩けない”、“階段を上がるのに手摺りが必要”など「足腰が弱ったなあ」と感じるようになったら、ロコモティブ・シンドロームの始まりかも…ロコモチェック、ロコモ予防についてお話しします。

【場 所】 市立貝塚病院 7 階講義室 14:00～15:30

【講 師】 リハビリテーション科技師長 中林 和昭 【費 用】 無料（定員 60 名 要予約）

【申込・問合】 市立貝塚病院 地域医携室 ☎ 072-422-5865（内線：236）・1 階総合案内

■『大阪府がん診療拠点病院』に指定されました

当院は 2011 年 4 月、大阪府より「大阪府がん診療拠点病院」に指定されました。今後近隣の医療機関と連携して、緩和ケアの充実、在宅医療支援、がん患者・家族に対する相談支援に努め、地域におけるがん医療の充実を目指していきます。

外科部長／乳がんセンター副センター長

■吉田 哲也 先生 「乳癌の臨床賞」優秀賞受賞！

わが国唯一の乳癌研究誌である「乳癌の臨床」誌 第 25 巻 第 3 号に掲載された論文「吉田哲也・他 著：乳腺内メタリッククリップに対する C アーム透視を利用した術前マーキング（胸壁水平・垂直透視法）」が、「第 5 回 乳癌の臨床賞・優秀賞」を受賞しました。



受賞の言葉

この度、「乳癌の臨床賞・優秀賞」を受賞いたしましたことをご報告いたします。今回、受賞の対象となりました「血管造影 X 線診断装置を用いた C アーム透視法（胸壁水平・垂直透視法）」は、微小な石灰化病変に対して手術の際に目印をつける方法であり、従来の方法より患者さんにストレスなく楽に受けて頂ける方法として我々が開発した検査法です。従来の方法は患者さんに大きな侵襲（針を刺して位置を決めることによる痛みや、針を刺したまま手術までの時間を過ごすストレス）を強いるものでしたが、我々の方法では手術前日にわずか 1 分程度の透視検査で行えるため、痛みはまったくなく、マジックでつけた印の上に防水フィルムを貼ることで手術まで自由に行動して頂くことができ、入浴も可能です。

微小な石灰化病変はマンモグラフィー検診で発見される機会のますます増加している病変であり、この方法が普及することにより、多くの患者さんの痛みやストレスを軽減できるものと考えております。今回の受賞により、全国への普及がよりいっそう早まることを期待しております。

■『病院祭』を開催します

《テーマ》 **あなたに安心！ほっすピタル**
～がんばってます貝塚病院 2011～

医療相談、講演会、もちつき、模擬店等々実施
予定です。皆様の参加をお待ちしております。

市立貝塚病院 病院祭実行委員会

昨年度「病院祭」風景



平成 23 年
10 月 30 日
(日)